

あわゆず ふれず

第36号 2020年4月25日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日本語ネットワーク

「受け入れる」ということ

外国人労働者の受け入れ拡大を目的とした新在留資格「特定技能」を盛り込んだ改正出入国管理法が2019年4月に施行されて、1年が過ぎた。この度の新型コロナウイルス感染拡大の影響も受け、当初の見込みは厳しいものとなっていると思われるが、長期的に見ると、外国人の就労状況が変わっていくことは間違いないだろう。

そもそも「外国人を受け入れる」とはどういうことか。関わりのあった外国人の就労状況を聞いたり、就労支援にかかわっている方の話を聞いたりする中で、ときおり、単に「日本人が築いてきた枠組みに外国人を受け入れる」と捉えられているように感じることもあるが、それでよいのだろうか。

徳島では在留外国人の約半数を技能実習生が占めている。技能実習制度は「日本の高い技術を身につけ、その国の発展を担う人を育てる」目的で作られたということだが、実際には、人手不足が深刻な現場での働き手としてしか扱われていないケースが多いのは周知の事実だ。外の社会とのかかわりもなく閉ざされた環境で、日本語もほとんど話せないまま年数が過ぎていくという話もよく聞く。日本語を話す機会を奪われるということは、より健全で豊かな生活を求める手段を奪われるということだ。しかし一方で、ある企業では、技能実習生を迎えるにあたり、継続的に日本語が学べる時間を確保するとともに、日本人の社員もその実習生の母国語や文化を勉強しているという。「受け入れる」ということは、単に働き手として扱うのではなく、日本語を学ぶ場も含め、彼らが安心して暮らせる生活を保障できるよう、環境を整えることではないだろうか。

外国人向けの求人情報では、採用要件に「JLPT（日本語能力試験）N1取得」と書かれていることがあるが、ある留学生向けの就活セミナーで講師の先生の話聞いたとき、はっとさせられた。「採用の要件はN3程度で十分。最初からN1取得ありきとうたっている企業は、外国人を日本人の代わりとしか考えていない。それでは外国人ならではの大事な人材をみすみす逃すことになる。」というのだ。確かにN1を取得していなくてもコミュニケーション力が高く、豊かな発想力を持っている外国人はたくさんいる。まずは本人自身に目を向け、それから企業が日本語力を向上させる環境を整え育てていくぐらいの覚悟をして、採用をしてもよいのではないかな。

ただ、たとえ経営者が外国人の資質を認めていても、その意識が現場の従業員と共有されていなければ、その外国人は資質を発揮するどころか、孤立し居場所がなくなってしまう可能性がある。「受け入れる」ということは、周りの人のだれもが、外国人を一人の人として資質を認め、生かそうとすることではないだろうか。

また、国が違えば長年暮らした文化背景も全く違う。すると、その理解の違いから、外国人と日本人の間には、しばしば衝突が起こる。日本では、礼儀を重んじることで、まわりと円滑にコミュニケーションができ、規律を守ることによって社会の秩序が保たれ、誰でも公平に恩恵を受けることができる。それは外国人にとっても生活を豊かにするための生きる術ともなる。「受け入れる」ということは、やみくもに日本のやり方を押し付けるのではなく、日本の良い面を外国人に理解してもらう努力をすることなのではないだろうか。技術職として重要なポストを任されているある外国人は、「日本のどこよりも徳島が好きだ。この徳島でずっと家族と暮らしていきたい。」と言った。会社の中で互いに理解し合い、認め合っているからこそ、彼は自分の居場所や役割を見いだせているのではないかなと思う。

「受け入れる」ということは、単に「日本の枠組みに外国人を受け入れる」ということではなく、その外国人の文化背景や資質を認め、互いに尊重し理解し合おうとすること、そして同じ仲間として共に手を携えていく覚悟をすることではないだろうか。その覚悟があれば、これからの社会にも新たな可能性が広がる。そう期待したい。

(JTMとくしま日本語ネットワーク事務局長 辻 暁子)

2019年度JTMとくしま日本語ネットワーク 第1回定例会 「外国人と共に働くための日本語教育を考える」

日時：2020年1月18日（土）13:30～15:30

場所：公益財団法人徳島県国際交流協会（トピア）大会議室

講師：弥勒の里国際文化学院日本語学校 教務主任 有田 聡子 先生
非常勤講師 箱田 栄 先生

参加：一般 26名（企業関係者13名を含む）、JTM会員 26名

2019年度第1回定例会は、外国人を受け入れ、共に働くために、どのように日本語教育の環境を整え、内容を充実させていけばよいかについて考える機会として、開催されました。弥勒の里国際文化学院日本語学校は、留学生と系列の企業の技能実習生の授業を行っていらっしゃるということで、講師をお願いしました。今回は企業での日本語教育の事例をお聞きし、注意点や工夫するべき点について、より具体的に多くのことを学ぶことができました。

外国人労働者受け入れの現状と制度—在留資格別外国人労働者数の推移について（有田先生）

2018年12月現在、国内の在留外国人は273万人で、その内の146万人が労働者で、外国人労働者の在留資格は①身分に基づく在留資格（永住者、日本人の配偶者等）②資格外活動（留学・家族滞在他）③技能実習④特定活動（EPA・ワーキングホリデーなど）⑤専門的・技術的分野の在留資格（技術・人文知識・国際業務等）の5つに分かれていたが、2019年そこに特定技能があらたに創設された。

弥勒の里国際文化学院日本語学校で日本語教育を行っている技能実習生は、ほとんどがフィリピン人である。現在も、フィリピン人が中心で、インドネシア人も増えて来ていて、現在、系列の企業で働いている技能実習生は約400名だとのことである。

技能実習生への日本語教育の実際の授業例について（箱田先生）

<1か月研修について>

1か月研修は、来日直後から現場配属前までの152時間で、日本での生活や仕事に必要な最低限の日本語を習得する。到達目標は、①現場で日本人の指示を理解し、働くことができる。②危険から身を守ることができる。③日本での生活に必要な基本的な場面で、日本語が使えるようになる。④N5レベルの日本語力の習得、である。

さらに、1か月研修の全体の流れ、授業内容と授業の流れ、使用テキストとその特徴などを話していただいた。使用テキストは、技能実習生に特化し、実践面を重視した『技能実習生のための日本語100時間』、会話練習のための『あたらしいじっせん日本語』、N5レベルの日本語習得のための『スピードマスター』、文字学習のための『かなマスター』などである。

<授業例について>

教室で使っている『技能実習生のための日本語100時間』の第2課「てぶくろをしてください」をもとに



して、「導入」「展開」「まとめ」のそれぞれの内容について具体的でわかりやすい説明があった。

留意点として①覚えた語彙を使って文型を練習するので、各課の学習前にしっかりと語彙を覚えさせる。②指示通りに動けることが目標の一つになっているので、しっかり体を動かして練習させる。③現場では方言で話しているの、方言指導も必要である、などのアドバイスがあった。

<検定補習について>

実習生は入国後12か月までに職業別技能検定試験を受ける。不合格なら、1か月後に2回目を受ける。2回目も不合格なら帰国となる。試験は実技と日本語で、それぞれ1時間である。実技検定の練習は受け入れ先の会社で行う。

検定試験合格を目指して、検定補習を行う。日本語検定対策学習は入国後8か月目頃から、土曜か日曜に1回あたり1.5時間、合計4回で6時間行う。不合格であれば、さらに2回の補習を行う。技能検定試験の練習問題は、公開されている練習問題や過去の問題を参考にして予想問題を作成、模擬試験として実施している。会社の事務所には、学習に遅れがちな実習生について報告して、フォローしてもらっている。このような事務所との連携が合格につながる。

お話を聞いて

箱田先生が、企業の方へと行って話された次の言葉が印象深く残っています。これらのことは企業関係者だけでなく、私たち日本語支援者にとっても心に留めておかなければならないことだと強く思いました。

- ・使用教科書に出てくる語彙や文、表現がどんなものであるか、目を通しておく。
- ・実習生は1か月研修が終わっても日本語がうまく話せるわけではない。日本人といっしょに働いている間にだんだん上手になってくる。「分からない」と言われても話しかけることで、相手との距離が縮まり、日本語をうまく話せるようになる。まずは、“やさしい日本語”で話しかける。
- ・共通言語である日本語の習得や職場の人とのつながりが大切な理由は「命を守る」ということである。具合が悪い時や緊急の時にきちんと伝えられることは自分の命を守ることにつながる。
- ・日本語が上手に話せなくても、「違う言語を話す一人の人間」として対応する。

最後に質疑応答があって、今回の講演は終わりました。
(村松幸子)



ありた さとこ
有田 聡子先生

弥勒の里国際文化学院日本語学校

教務主任

2006年より、同校に勤務し、留学生を中心に日本語教育を行っている。同時に技能実習生や企業の外国人社員への日本語教育に関して、カリキュラム整備、講習のコーディネートなど、幅広く携わっている。共著の著書に『N1文法スピードマスター』『N5聴解スピードマスター』などがある。



はこだ さかえ
箱田 栄先生

弥勒の里国際文化学院日本語学校

非常勤講師

1996年から外国人技能実習生、企業の外国人社員などの日本語教育に携わる。技能実習生の職種は主に溶接、塗装、足場等、外国人社員は設計技師や営業等。年齢層は20代前半から40代まで。技能実習生の職種別検定対策練習問題作成と補習にも携わる。

アンケートより

- 研修内容が具体的で、実践を踏まえたもので、とても良かった。また、発音が明瞭で聞き取りやすかった。
- 外国人を受け入れているが、日本語教育をどのように行ったらよいかわからない状況だったので、きっかけを知ることができてよかった。
- 企業としては、1か月研修の後の指導について知りたい。
- 実習生と積極的にコミュニケーションを取り、日本語をわかってもらえるようにしたい。
- 紹介して下さったテキストに関心があり、授業で活かせるのではないかと考えた。

2019年度に行われた日本語講座

●読解力を高めるための日本語講座（自動車運転免許取得支援講座）

開催日時：2019年9月6日～12月6日（14回） 金曜日 9:30～11:30

開催場所：ヒューマンわーくびあ徳島（徳島市昭和町）

主催：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

この講座は、自動車教習所の教官が仮免許取得テストに向けて行う講座を受講するために、事前に語彙、文末表現、内容を易しい言葉で学ぶ講座です。日常会話ではめったに使うことがない語彙や文末表現が多いため、内容を易しい日本語で書きなおし、写真やイラストを使って説明し、仮免許取得テストに出てくる内容を理解してもらいました。今年は参加者が少なかったのですが、その分、細やかな指導ができました。学習者の一人は、「これまでは、夫に連れて行ってもらっていたけれど自動車免許を取得したら、自分で行きたいところに行けるようになる。」と笑顔で話してくれました。（玉置 房）



●日本語能力試験 N2 対策講座

開催日時：2019年9月9日～11月28日（20回）

月曜日・水曜日 9:30～12:00

開催場所：ヒューマンわーくびあ徳島（徳島市昭和町）

主催：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

13名（中国12名・ロシア1名）の申し込みがあり、常時8名前後の参加がありました。日本語能力試験 N2 のために、文法、読解、聴解に絞り講義を行いました。受講者の多くは在日年数が長く、能力に差はありましたがコミュニケーション力の高い学習者が多いクラスでした。しかし、初級の文法学習の経験がない学習者が多かったため、N2 の文法構造の理解が難しく、そのたびに初級文法の説明を要し、学習者たちもきちんと初級文法を学習していないことを悔やんでいました。定住者の中級の授業でも、初級文法の学習の大切さを痛感しました。今回、N1 が2名、N2 が4名合格したと嬉しい報告を受けました。（玉置 房）



●働きながら学べる中級日本語教室

開催日時：9月30日～3月23日（20回） 月曜日 18:30～20:30

開催場所：わーくびあ徳島（徳島市昭和町）

主催：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

この教室は、働きながら日本語を学ぶ場所を求めている人たちのために開かれました。学習者（中国 6名 インドネシア・ベトナム・ブラジル 各1名）は日本に定住して働いているので、会話には不自由していませんが、もっときれいな日本語を話したい、きちんとした文章を書きたいという思いが強く、熱心に授業を受けていました。テキストは『できる日本語 中級』を使い、「話す・書く」ことに的を絞った授業を展開し、その中に文法の学習を適宜取り入れました。日常の会話では長年の癖がついてしまい、また、それを訂正してくれる人もいないという現実を学習者もよくわかっており、教師の注意にしっかり耳を傾けていました。学習する場が少ない中級学習者には貴重な教室だったと思います。（杜 美智）



●『こんにちはとくしま』の教え方講座

開催日時：2020年2月1日・8日・15日（3回） 土曜日 9:30～16:30

開催場所：ヒューマンわーくびあ徳島（徳島市昭和町）

外国人受け入れ企業で日本語指導を担当している人を対象に、JTM とくしま日本語ネットワークのオリジナルテキスト『こんにちは とくしま』の教え方講座を開講しました。2019年4月から12月までのおよそ9か月をかけて作成した「手引書」を元に、指導するときの留意点や文型のポイントなどを説明し、いくつかの文型を取り上げて模擬授業を行いました。

最終日には、実際に3人の外国人学習者に日本語を教える体験をしてもらいました。それぞれイラストや文字カードなどを使い、よく考えられ、工夫された模擬授業でした。

日本語が話せるだけでは、ポイントを押さえた指導ができないことや学習者が間違えやすい点などを実感してもらえたのではないのでしょうか。（加村 匡子）



ことばって、いいなあー日本語指導・支援で印象に残っていること

- 中学1年生の日本語ゼロレベルの男の子に「サバイバル日本語」の「本、ある・ない。ノート、ある・ない。」「頭が痛い。のどが痛い。」などを教えたあとにひらがなの書き取りをしようと思って「ノートある?」と聞いたところ、「ノートない。のど、ある。」とジョークで返してきました。まったくのゼロレベルから、ちょっとしたジョークが言えるようになったのかと感慨深く、そして笑える出来事でした。
(加村 匡子)
- 小学校2年生の男の子に、「スーホーの白い馬」のところで、「貧しい」という意味を教えていた時のことです。モンゴルから来ている子だったので、すぐにスーホーと同じように遊牧生活をしているおばあちゃんを思い出して、「おばあちゃんのところは、貧しくない。お金持ちや。」と怒るように言ったのが印象に残っています。(因みに現在羊20頭、そんな少ない数で遊牧生活をしているのは、考えられないとモンゴル事情に詳しい人が言っていました。)
(木内ひろみ)
- 学校から持ち帰ったチューリップの球根を母と二つの植木鉢に植え、どちらが先に芽が出るか競った児童の話。中国では植物を育てる時、歌を聞かせると早く大きく育つと言われていたようで、早速実行。並んで置いてある母の鉢に聞かれないよう自分の鉢をボール紙で囲み、そうっと小さな声で何度も何度も好きな歌を歌ったそうです。母のより先に緑の芽が見えたとき、とっても嬉しかったと可愛い笑顔で話してくれました。
(木南 繁子)
- 「にほんご寺子屋」には、子どもだけでなく、子どもを連れてきている保護者の何人かも日本語の学習をしています。その親子で参加している子どもと学校支援でも関わっているのですが、先日、担任の先生からちょっとうれしい話を聞きました。「保護者から日本語で書かれたお手紙をもらったが、一所懸命に日本語で伝えようという気持ちがあふれていて、その気持ちが子どもにも伝わっているのか、子どもの日本語が上達してきているのがわかる」とのことでした。担任の先生、保護者、子どもの笑顔が浮かんできて、とても幸せな気持ちになりました。
(長町 順子)
- ある講座を担当した時のことです。新出語彙の練習をしましたが、「しょっちゅう」の発音がどうしても「しょちゅう」とか、「しょうちゅう」となってしまうのです。それで何度も「しょっちゅう、しょっちゅう」と言って練習しました。すると一人の受講生が、「先生、そんなにしょちゅう、しょうちゅう」と言っていたら、酔っ払ってしまうよ。」と言いました。来日年数が長いので、「焼酎」を知っていたのです。他の何人かも知っていて、爆笑になりました。未だに忘れられない情景です。
(村松 幸子)
- 中国から来た小学3年生の女の子に「日本に来てびっくりしたことは何ですか。」と聞いた時のこと。初めて教室に入った時「えっ!!子どもが中国語を話していない。」大人が分からない言葉を話すのは仕方がない、とあきらめていたようですが、まさか子どもが……。しばらく自分の殻に閉じこもっていましたが、「嵐」をテレビで見ながら前向きに変わることができたそうです。
(杜 美智)
- 子どもたちへの支援をしていてよく感じるのは、個別学習の効果です。家庭教師と同じで、ひとりひとりのレベルや今考えていることに寄り添って学習やコミュニケーションができます。日本の他の子どもたちにも、クラスやグループだけではなく、こうした個別の機会を与えられると、いいだろうなと思います。日本語教育が外国につながりのある子どもたちだけではなく、日本の教育の「当たり前」を問い直すきっかけになるといいなと、子どもたちの表情などを見ていて感じます。
(森井 哲也)



2019年度 写真で綴る

日本語サロン



日本語指導勉強会



日本語指導部
研修会



日本語指導部
「こんにちは とくしま」手引書作成



徳島県委託 夏休み
子ども日本語教室



にほんご寺子屋



にほんご寺子屋
(茶道教室)



春休みにほんご寺子屋
(職場体験)



JTMの活動 この一年

第1回定例会

「外国人と共に働くための日本語教育を考える」



徳島文理大学主催

夏季日本語・日本文化研修



公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会 主催

読解力を高めるための日本語講座 (自動車運転免許取得支援講座)



日本語能力試験N2対策講座



働きながら学べる中級日本語教室



JTM主催

『こんにちは とくしま』の教え方講座



他にもこんな活動をしています。

- 徳島県国際交流協会日本語教室 日曜日担当
- 学校からの要請による日本語支援
- 徳島文理大学 日本語能力試験N1対策講座担当
- 徳島県立西部テクノスクール 定住外国人向け介護初任者研修科 日本語指導担当
- 株式会社日産サティオ徳島 日本語研修担当
- プライベートレッスン
- 機関誌「あわゆずぶれす」発行
- 会報「スマイル通信」毎月1回発行

INFORMATION

◆会員数(2020年3月31日現在) 正会員数51名 協力会員数3名
◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。
協力会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
*毎月第2土曜日13:30~15:00
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
*毎月第2または第3土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会

日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
*毎週月曜日10:30~12:00
とくしま国際戦略センター(トピア)

にほんご寺子屋

- *毎週日曜日13:30~15:00
とくしま国際戦略センター(トピア)

『こんにちはとくしま』の教え方講座

- 2020年2月1日・8日・15日(全3回)
- *土曜日9:30~16:30

—主催 公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会

読解力を高めるための日本語講座

(自動車運転免許取得支援講座)

- 9月6日~12月6日(全14回)
- *毎週金曜日9:30~11:30

日本語能力試験N2対策講座

- 9月9日~11月28日(全20回)
- *毎週月・木曜日9:30~12:00

働きながら学べる中級日本語教室

- 9月30日~2020年3月23日(全20回)
- *毎週月曜日18:30~20:30

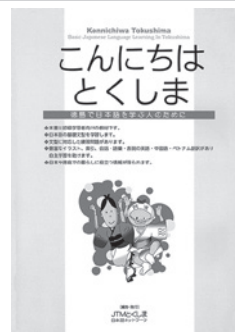
日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。

- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmmtoku-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima
こんにちは とくしま
2018年12月1日 第4版発行
徳島で日本語を学ぶ人のために



2020年2月
「教え方の手引き」発行

子どもと暮らすための
こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の手書きの練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入・お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

- ・徳島県福祉基金より助成金をいただきました。
- ・とくしま県民活動プラザよりNPO強化事業助成金をいただきました。
- ・国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会および徳島中央ロータリークラブより補助金をいただきました。

あとがき

2019年度の活動をまとめた「あわゆずぶれす」36号をお届けします。

コロナウイルスの影響で、JTMの活動も制限を余儀なくされている昨今ですが、それ以前の活動はとても充実していました。

本号が届く頃には、元の生活に戻っていることを祈っています。

(長町 順子)

発行 行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山満十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・玉置 房・辻 暁子・長町 順子
村松 幸子・杜 美智・細谷 裕重

印刷/徳島県教育印刷株式会社

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmmtoku@nifty.com

URL <https://jtmmtoku.com/> ※ホームページが新しくなりました

<https://www.facebook.com/jtmmtoku/>